



平成 25 年大山町議会議員研修報告書



北は宮城県～沖縄まで 240 数名の講習風景

1	日 時	平成 25 年 8 月 1 日 (木) ～ 2 日 (金)	
2	研 修 地	滋賀県大津市 全国市町村国際文化研究所	
3	研 修 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1) みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう	滋賀県大津市
		(2) 東日本大震災以降の経済とモノづくり	滋賀県大津市
		(3) 「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり	滋賀県大津市
		(4) 「飯田方式」から学ぶ中心市街地の再生	滋賀県大津市
4	研 修 結 果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1) みんなで楽しく汗して自分たちのまちを豊かにしよう 講師 木村俊昭 東京農業大学教授</p> <p>部分個別の活性化が全体に広がらないことが多々あるのはなぜ？ 流入人口は増えたけど、潤った人、企業は誰、どの位？ わが町の方向性、どの様な業種で、誰ができるか。 まずは地元、いままで頑張ってくれた企業、地場産業の活性化（当然だ！） ⇒ それから誘致企業（誘致企業には税等の優遇処置が多い = 間違っていないか？ 地場産業がやる気を出すことが、大事 ⇨ 新規参入企業も一緒にやろう。</p>	

	<p>(2) 東日本大震災以降の経済とモノづくり 講師 関 満博 明星大学教</p> <hr/> <p>岩手県北部の久慈あたりから宮城県北部の石巻に至るリアス式海岸が津波による被害がひどい。このエリアの基幹産業である水産関連企業が流失により壊滅した。 福島県の第一原発周辺の町村は、放射能の汚染により近づくことも困難な状況が続いている また、住民の多くは原発関連部門で働いていた為、現状では就職の場がない。</p> <p>阪神淡路の補助金は利子補給程度、東日本の場合、工場再建時で4分の3補助 ⇒ 中小4000社ほど助かったが、大手本体が国外にシフトした為、仕事はドンと減った その中で、成長を続けているところは北上市である。</p> <p>これから日本の産業の生き残り戦略は 95年ピークのやり方 素材・開発 ⇒ 加工・組立て ⇒ 消費・サービス (安くて良かった) これからは 素材・開発 ⇒ 消費・サービス を結びつけることが大事</p>
--	--

調査結果 又は概要 (意見・ 感想)	<p>(3) 「都市再生」と「コミュニティ創生」で進める持続可能な協同のまちづくり 講師 三鷹市長 清原 慶子</p> <hr/> <p>自治体行政が議会と共に目指す住民本位の地方自治、住民本位の行政を実現する為に必要 な住民との 相互信頼、基礎となる 参加 と 民学産公の協働。 自治基本条例と自治体経営の特徴 = 重要なのはその過程においていかに住民の声を反映でき たか徹底的なパブリックコメント手続き。 協働のため特に取り組んでいること 市民との情報共有の推進 誘導しないことが大事 職員の人材育成 職員とのトークセッション - 市長の話を聞かせるのではない</p>
	<p>(4) 「イイダハウシキ」カラマナブチュウシンシガイチノサイセイ 講師 高橋 寛治 地域プランナー</p> <hr/> <p>地域を総合的・構造的に見て背策を行う = 過去を学んで将来を知る 普遍的なことは何か? 計画性のある小規模事業の連鎖 新しい生き方を探している若者が増えている - 車社会との分離 イベントでは再生・活性化はできない - 全国的にイベント倒れ=起爆剤になれない 政策によって地域は全く違う形になる 国は部品を作ってくれる、完成品を作れるのは基礎自治体 将来の利益を考える = 普遍的投資 科学的な調査 文明史的に全体を見る 今までの延長線上に未来はない</p>

5

(5) まとめ

アカデミーの講習は2回目です。今回も面白くて、やる気の起こるよう講義でした。
世の中には素晴らしい人達がたくさんおられました。



研修終了

みなさんの満足そうな顔

玄関にて

